

(別紙の2)

## 自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	日々の生活の中で、理念に沿った介護ができるよう、職員同士で話し合っている。理念の「安らぎとよろこびがあり、地域において安心できる暮らしを支援します」を、目に入る場所に掲げて業務に向かっている。	フロア内や玄関に理念を掲げ、業務中に振り返ったり、職員同士で理念にたちかえるような会話がもたれ、業務の質が保たれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	所在する地区の皆さんと少しでも関わりが持てるよう、地区長様へ情報をつなげている。また地元中学生が毎年訪れ、若い世代と交流している。コロナ禍で、昨年まではオンラインで交流していた。	利用者の高齢化地区の行事の参加は難しいが、さんくろうへの協力など、地元の職員がほとんどなので情報発信等を行っています。また地元の中学生との交流で、今年度は久しぶりにお茶のみの交流会が実現できました。地区の読み聞かせボランティアの方や、野菜等の差し入れもあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	中学生が交流に訪れることで、認知症の方たちと関わっている。子どもたちは事前に学習をしており、グループホームの役割を実感する機会としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍で昨年度まで開催を見送っていたが、本年度は6月末に防災訓練と併せて実施した。麻績、筑北両村の担当者を招き、意見交換をしている。	コロナ禍で対面での開催は難しかったですが、今年度は防災訓練を兼ねて家族・筑北と麻績の役場職員・包括職員・消防署員・区長の参加で開催され、有意義な議論が交わされた詳細な記録が残されていました。有事の際、区の役員が当事業所への協力を率先して行うとの記載がありました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	所在する麻績村とはメールや電話で常により取りをしている。ホームの様子、状況を伝えながら、相談している。	村の職員とは顔なじみで、法的な相談や、困難ケース等のあらゆる相談も密に行っており、協力体制が構築されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関は施錠せず、自由に出入りができるようにしている。ベッド柵についても転倒にならないよう最低限の設置とし、取り付けが必要な時は、ご家族に相談し、同意を得ている。	玄関の施錠はせず、防犯のため防犯カメラを3台設置し、中と外の人動きを察知できるようにしています。身体拘束に対する弊害も十分に理解されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日頃から職員同士で利用者様への態度、言動に注意し、虐待とならないよう常に危機感を持って確認し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者様にどこまで支援が必要であるか、職員同士で現状を確認し、常に支援について模索している。ご家族とのやり取りを密にし、制度の理解を深めるため、村担当者へ相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は文書、書類を提示しながら説明を行い、質問や意見等に応じられるよう努力している。なるべく直接説明するか電話で確認するなど、ご家族に理解・納得してもらえるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議を実施しても、感染症等でご家族の参加が少ないが、個々の家庭で都合のよい時に面会をしていただき、利用者様の様子とともに、運営についてもご意見をうかがえるよう努力している。	会議に出席できない家族は、面会時に職員と話したり、運営についても奇譚のない意見が言える良い関係が築けています。家族より、利用者を楽しめる機会が欲しいとの意見に対し、実際に受診時、家族で自由を楽しめる機会を作りました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員から、運営・業務への意見を吸い取れるよう、常に正副管理者が耳を傾ける努力をしている。普段のミーティング、月一回の全体ミーティングで意見や提案が活発に出されており、本部へつなげている。	本部職員との面談が年1回対面で行われ、職員の思いを吸い上げる機会や月1回の職員会等をもうけています。また管理者等にも業務中など常に話す機会があり、十分に伝えることができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	正副管理者は普段から職員の様子を気にかけている。職員の希望の休みや体調不良時のシフト調整は、素早く対応できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	R5年度から社外、内部研修を積極的に行っている。とくに防災、感染症対策については担当職員が意欲的に計画し、実施している。また、大町市の本部職員と交流を行い、他業種との関わりを深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	昨年度までコロナ禍で十分交流ができなかったが、同業者とは、電話などをして情報交換したり、他の施設を訪問して相談する機会を徐々に増やしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本音が出やすい入浴の時間や、軟膏を塗布する時などに、「困っていることはありませんか?」と声掛けし、想いを引き出すように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面会や家族対応での顔合わせにおいて、生活の中で気になることを伺っている。また、体調に沿った、主治医の見解などをお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所申し込み時に、担当ケアマネの意見を参考に、ホームで対応できるサービスを希望されているか確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	引き続き、広告量みや布切れ切り等の作業を行なっている。体調に合わせて布巾干しもお願いし、世間話から体調を観察している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会をお断りしている時期もあったが、今年度は少しずつ面会できるようになり、ホームでの様子を知っていただけるようになった。お便りで不透明さを無くすようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	主に村内の主治医に通院した際、知り合いに会う機会があり、職員が間に入ることにより、会話が弾むよう支援をしている。	コロナ禍で地元の方が自由に来所することは難しいですが、ドライブで自宅付近に出かけたりすることはあります。また家族との面会も居室以外のスペースで行うなど工夫しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	フロアの席は固定しておらず、誰とでも話せて過ごせる工夫をしている。生活から気の合う方や趣味が同じ方で、話が弾むよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ホームを退所された利用者様が、入所された施設の関係者に折を見て様子を伺うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入浴中や作業中などの会話を元に、考えや思いを推測している。	気持ちが穏やかな時の会話から、以前の趣味や好きなものを引き出し、実際に提供したり、困難な方には表情の変化をとらえ好きな動物がわかり、その動画を提供したことがあったとの話がありました。不快なものを減らすことも大切にしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	担当者会議の際に、ご家族様からご本人が入所前にどんな暮らしをされていたかを聞いて参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日によって変化する体調面については、勤務ごとの申し送りでも共有・把握し、同じ時間帯の勤務者とは口頭にてリアルタイムで情報交換をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当の介護職員も同席しての担当者会議を実施し、月一のミーティングでも全職員から意見を募っている。	計画作成担当者が主に家族・職員等に聞き取り、3か月から6か月に1度のペースで見直し、状態の変化によって随時計画の見直しを行っています。モニタリング等を簡素化するため、デジタル化の導入が来年度より行われるとの話がありました。	月1回のミーティング等を利用し、モニタリングや計画の確認等あらゆる角度から意見を出し合える場を作っていくことを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の状態・状況を記録にてまとめ、状態・状況によってケアの方法を変更している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	新型コロナによる面会制限や、身体状況の変化でご家族様の通院付き添いが難しくなってきた状況を鑑みて、主治医に往診を依頼している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域住民の方も高齢化で関わりが減っているが、防災訓練や運営推進会議への参加があり、互いに持ちつ持たれつ関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	馴染みのある主治医への受診をベースに、体調の変化についてご家族へ報告・相談を行い、症状に適した医師に診察してもらえるように、連携を行っている。	入所前のかかりつけ医の継続を重視し、安心できる医療体制を提供しています。専門医の受診や利用者の状態に合わせた往診も行われ、又、訪問看護の体制も整っていて医療との連携が密にできています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週一の訪問看護師の来訪時に、体調変化が気になる方の情報を伝え、確認していただいている。そこから主治医へと繋げていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	重度の体調変化による入院ではない場合、早期退院を前提に医療機関との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	担当者会議時に、以前記入していただいた意向調査表を元に、お考えが変わっていないかの確認を行っている。	重度化した場合の指針が整備されており、家族と共有し、事業所でできる事とできない事を伝え、揺れ動く家族の思いに寄り添いながら話し合いを重ね、医療と連携しながら支援しています。	終末期の医療的な技術の研修や、看取りについての職員の心構え等、職員教育の機会を作っていくことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	コロナ禍の為中止していた防災訓練を再開すると同時に、ミーティング時にビデオ視聴による内部研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防火管理者が中心となって、大雨・大雪の可能性が発生した際に、事前に避難の可能性を把握し、対応方法について都度検討している。	年2回の防災訓練のほかに、月1回の防災の自主点検を行ったり、抜き打ちの伝達訓練を実施しています。事業所内がオール電化とのことで、停電時の対策として、発電機の導入を早急に行うとの話がありました。夜想定の訓練も予定されているとのことでした。近くの消防署との連携も取れています。	本部と連携を取りながら、現在の備蓄品等の確認と整備を行うことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの体調をみながら、声掛け挨拶をしている。	利用者の感情・体調の変化に合わせ声掛けのトーンを工夫したり、利用者の心地よさを職員が支援しています。口腔ケア時、トイレ誘導時等、さり気なく行うようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様個々の希望を聞いたり、誕生日には何が食べたいか自分で決めていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の希望に沿ったことや、塗り絵・折り紙などを行い、各自ゆっくり過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝と昼に鏡を見ながら髪をとかししたり、出かける際には、季節に合った洋服を着用していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様の好みを把握し、誕生日の献立に取り入れたり、季節の物、旬の物を調理し、利用者様と話を弾ませている。	出来る範囲で食器拭きやテーブル拭きを行ったり、季節ごとの漬物(梅 ぶり 野沢菜)を職員と漬けたり、タケノコの煮物の下ごしらえ等を行ったりしています。頂き物の野菜で地元の郷土料理もふるまいます。利用者の好みに合わせラーメンを提供することもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	特に夏季は、提供する時間を増やすことでお茶の摂取量を増やしている。体調を見計らい、毎日の食事は、肉・魚・卵を必ず摂取出来るよう献立を立てている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	一日3回食後に、利用者様によっては洗面器を使用して、各自で口腔ケアをしている。毎夜器具の消毒を行って、清潔でいるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄時に、汚れがないか尿取りパットの確認をしている。時間を決めて利用者様に声をかけ、トイレに同行したり、尿取りパットの交換を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導したり声掛けをするなどし、利用者が排泄に対して納得のいく支援を心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	利用者様によっては、便秘がちの方がおられ、排泄表に記録して把握・管理している。排便が3日以上出ない方には、医師と相談して排便薬の調整を行っている。水分摂取も大事であり、こまめな水分補給に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	曜日・時間は決まっているが、体調に応じて、入浴の順番を変更している。入浴時間が楽しいひとときになるように、心掛けている。	家庭風呂が完備されており、入浴を楽しむために季節風呂(ゆず湯 しょうぶ湯等)や、露天風呂のように外の景色(桜竹林 紅葉など)を見ながらの入浴を提供しています。利用者の状態に合わせ、足浴と合わせたシャワー浴の提供もあります。利用者の高齢化に伴い、今後機械浴の導入も予定しているとの話がありました。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	身体状況、居室の日当たりによって、最適な場所にベッドを配置している。布団も季節に応じて選び、使用していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬の把握、その副作用を把握し、身体変化に留意する。内服の変更は、申し送りや連絡表により、全職員に必ず伝わるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯物干し・洗濯物量み等、利用者様自身が自分の物を畳んだり、他の方の物を畳んだりしている。布切れ作りを分担して裁断したり、畳んだりしている。広告量みも共同でしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人ひとりの体調の変化、様子をみながら、対応している。通院時等は同行する家族と連絡し合い、ご家族と一緒に時間を有意義に過ごしてもらえるよう支援している。	夏には蓮の花を見に出かけたり、自宅付近のドライブを楽しんだり、天気の良い日には、庭先のベンチで外気浴や、散歩に出かけることもあります。春には花桃を見に行く予定があるとの話がありました。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	直接、お金を所持されることはないが、食事や日用品等、「払います」と気遣われることがあるため、すでに支払いを受けていると丁寧に敬礼をお伝えしている。ほしい物の購入を希望される場合は、ご家族に相談しながら用意するなど、ご希望に沿えるよう努力している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族からの電話は、いつでも話せるように取りついでいる。ご家族から届いた手紙等は、直接本人に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	24時間換気を実施している。フロアの壁や廊下には、レクレーション担当が考えた飾りを、毎月利用者様と一緒に作成して貼り、季節感を出している。	共同の廊下や居室には、職員と利用者が作った貼り絵や壁画が飾ってありました。また、職員と利用者の顔写真も同じ場所に飾られており、訪問者にもわかりやすく展示してありました。共有ペースは、自動的に温度調節されており、ゆったりとした心地よい空間を醸し出していました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	時間に関係なく、いつでもフロアにいられるよう声掛けを行ったり、椅子を用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には本人が使っていた馴染みのある物や、家族の写真や手紙が置いてあり、すぐ見える場所にカレンダーを掛けている。自分で整理できる方は整頓している。	各居室には使い慣れた馴染みの品を持ち込んであり、安心して過ごせるように工夫されています。壁には自分で折った折り紙や、思い出深い写真が飾ってありました。居室の窓からは竹藪が見え、景色を楽しんだり、筍取りを楽しみにされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや洗面所を中心に、手すりを持つ順番にテープを貼って、わかりやすいように視覚支援を行っている。		